

## 2 管理の基本方針

### (1) 大雪山国立公園の将来目標

本公園の自立、社会的特性を踏まえた目指すべき将来目標は下記のとおりとし、必要に応じ見直し・検討を行う。

世界自然遺産及びラムサール条約湿地候補地として高く評価された自然の資質を維持する

本公園は、環境省及び林野庁が設置した世界自然遺産の候補地に関する検討会において世界自然遺産候補対象地として検討された経緯を踏まえ、特色ある地形地質の損壊を防止するとともに、高山植物群落、希少な動植物の生息環境を保全し、大雪山本来の生態系の維持を図る。また、ラムサール条約湿地登録の要件を備える湿地・湿原の厳正な保護を図る。人為による影響をなるべく少なくするため、「ワイズユース」の実践に努め、地域に応じ「適度な不便さ」を維持するものとする。

雄大で奥深い景観や滝・湖沼等の景観を確保する

山岳部については、奥の深さを実感させる原生的な自然景観を確保する。山麓部では、滝、湖沼、渓谷などの景観ポイントを保全するとともに、特に主要な視点場からの良好な景観確保に配慮する。

地域に応じた登山道管理と利用のあり方を確立させる

本公園の核心部であり登山利用に限られる山岳部の自然環境の保全と自然体験の享受の両立を図るため、地域あるいは登山道ごとに管理と利用のあり方の確立を図る。

場所と季節に応じた適切な利用を推進する

利用拠点においては、過剰利用による自然環境の損壊を防ぎ、適切な利用を推進し、自然公園としての静寂な環境を維持する。

温泉を有効に活用する

本公園の山麓部の各地に湧出する温泉地は、公園利用拠点であるとともに保養のための利用地であることから、その立地条件を意識した活用を図る。

適正かつ快適な利用環境を確保する

公園利用者の適正かつ快適な利用環境を確保するため、自然環境、利用環境、利用方法、交通事情、季節的事項等について、現地拠点施設やインターネット等を通じて幅広く収集、提供する仕組みを構築し、地域振興や環境学習への活用を図る。

### (2) 保護に関する方針

本公園の特徴である高山植物群落、原生的な状態を維持する森林、湿原、滝、渓谷、周氷河地形、永久凍土、構造土などの地形地質や火山活動に由来する柱状節理などの地形地質の厳正な保全を図るとともに、外来生物の定着・繁殖を防ぎ、高山帯に生息・生育する希少な動植物とそれらを中心とする生態系を保全する。特に、山岳部の雄大で奥深い原生的な自然景観については厳正に保全を図るとともに、山麓部の良好な眺望の確保に配慮する。

保護方針の要点は、以下のとおりである。

本公園の良好な自然環境について、特に原生的な自然環境を有する地域を厳正に保護する。高山帯等、本公園の核心の景観及び特徴的な風致景観の保護を図る。

希少野生動植物について、人為による直接的及び間接的な悪影響を防ぐために必要な保護策を講じる。

地球温暖化の影響を受けやすい地形地質・生態系の変化を把握するために情報の収集を図る。

外来生物の侵入・定着を阻止するため、必要な施策・方策を講じる。

特別地域のうち、主要公園利用地区であり、かつ、風致景観を保護する必要性が極めて高い地区である層雲峡峡谷、天人峡峡谷、吹上温泉及び然別湖周辺の4地区は、特別地域の規制の範囲内で他の地区に比してよりきめ細かい配慮を求めることとする。

### (3) 利用に関する方針

本公園の利用に際しては、自然公園としてふさわしい良好な利用空間を確保するとともに自然とのふれあいの増進が図られるよう、各種基盤施設の整備充実と自然解説等ソフト面の対策の推進を図るとともに、自然環境の保全に対する配慮がなされるよう、適切な利用への誘導を図る。

利用方針の要点は、以下のとおりである。

地域あるいは登山道ごとに利用のあり方を確立する。登山道、避難小屋等の整備や維持補修に当たっては、利用のあり方に応じて内容を決定するとともに、山岳部のトイレ対策について一定の方針と体制を確立する。

利用拠点でもある温泉街の活性化に向け、泉源の保護を図りつつ、温泉地及びその周辺部の自然環境、社会条件、利用状況等を踏まえ、必要に応じ利用推進のための施設を整備する。

景観にそぐわない広告物や音楽など利用者が不快に感じる演出の抑制・改善などにより、静穏な環境を維持するよう努める。

集団施設地区における整備計画及び景観の向上にも配慮した再整備計画等に基づく各種公共施設の整備の推進を図る。各施設の管理については、設置者が関係機関の協力の下、適切な管理を図るものとし、周辺の公園事業者及びパークボランティア等の協力も要請するものとする。

自然環境損壊の防止と、快適な利用環境確保の両立のため、自然環境・立地条件・季節性を踏まえマイカー規制等を行いながら適切な利用を推進する。

本公園に特有の問題としてヒグマと人の距離が近いことから、公園利用者にヒグマに関する情報の迅速・正確な提供によりヒグマによる危害の防止に努め、ヒグマの保護と公園利用の安全な両立を図る。

利用者への適切な情報の提供とマナー向上の促進により快適な利用環境を確保するため、大雪山の自然環境、利用方法、交通事情、季節的事項等について、ビジターセンター等現地の拠点となる施設やインターネット等を通じてタイムリーに広く適切な情報を提供する。

自然に関する知識だけでなく、地域の人々と大雪山との歴史を踏まえた今日の関わりや、温泉利用に関する事など幅広い情報を収集、提供する仕組みを構築し、エコツーリズム等を通じた地域振興や環境学習に活用する。